

414
A 3622



天正十一年四月
限正
侯爵郵寄贈

明治十二年五月閣下ノ命ヲ奉シ家屋火災保險取調ニ從事
 スル以來茲三ヶ月當時命スル所ノ旨ヲ奉シ東京京都大阪兵庫
 神戸神奈川横濱三府二港ノ建家ノ種類現在建坪并焼亡坪數等ハ
 既ニ畧ホ調査シ了ルヲ以テ茲ノコト頻リニ保險施行ノ方法順序オ
 ノ調査ニ從事セリ然リ而シテ保險施行ノ順序ニ涉リ僕今少ク閣下
 ニ白スル所アラント欲ス該三府二港ハ之ヲ合計シテ現在建坪六百
 七十七万四千三百三十六坪七合。五五内焼亡坪一ヶ年平均五万五千三
 百七十四坪二合。七。之ヲ各地通常ノ屋價ニ算シテ焼亡金高百
 五十九万四千七百九十三圓六十五錢四厘又之ヲ現在建坪金高ニ割
 合ヒ每百圓ニ付キ八十錢六厘トナル右ノ中ニ就テ京都府ハ百圓
 ニ付九錢一厘大阪府ハ同二十一錢兵庫(神戸)ハ同十五錢七厘神奈
 川横濱ハ同一圓七十四錢八厘トナル然レトモ神奈川横濱ハ明治



一年以來ノ燒亡表ヲ視ルニ或ハ六千乃至四千坪ノ燒亡アル年アリ或ハ全ク燒亡ナキ年アリ其數頗ル調ハス猶ホ精細ノ調査ヲ為スニ非ルヨリハ未タ其詳ヲ得ル能ハサルヲ以テ暫ク未定ニ附セサル能ハス故ニ同港ハ今假リニ之ヲ除キ他ノ二府一港ハ燒亡甚タ少ク且家屋モ一般ニ堅牢ナルヲ以テ容易ニ保險スルヲ得ヘク更ニ危險ヲ渉ル恐レアルヲナシ獨東京ハ人口ノ稠密ナル家屋ノ危險ナル火災ノ夥多ナル明治一年ヨリ同十一年ニ至ル燒亡高ハ每百坪ニ付キ平均一坪四合三勺八才又明治十二年十三年并今年一月二月ノ諸大火ヲ加算スレハ平均二坪一合四勺八才ニ至リ其現在坪金高ニ對スル燒亡金高ハ每百坪ニ付キ一四七十八錢三厘ヲ下ラス蓋シ一四七十八錢三厘ノ賦金實際保險ヲ施行スルニ方リノ賦金割賦金并廳費ホノ僅少ハ固ヨリ低カラス之ヲ歐洲諸國ノ例ニ比セハ勿論數倍ノ高ニ至ルト雖亦決シテ實行スル能ハ

ナルモノト為ス可カラス本府火害ノ慘酷ナル皆人ノ知ル所ニシテ如シ保險ニ因テ府民ヲシテ流離饑寒ノ禍ヲ免ル、ヲ得セシメハ假令ヒ平均二坪ノ賦金タリトモ更ニ高シト為スニ足ラサルナリ然レトモ若シ此賦金ヲ以テ高ニ過利底府民ノ堪エル能ハサルモノト為シ且火災ノ屢々ナル延焼ノ廣大ナル之ヲ保險スルハ危險測ル可カラスト為サハ又別ニ方法ノ有ルアリ即チ燒亡家屋ニ附與スル金額ハ之ヲ年賦貸下金トナシ其息ヲ收ムルヲナク廿年乃至三十年ノ年限ヲ以テ漸次元金ヲ徵收スヘシ而シテ他ノ燒亡セサル家屋ニハ右費下金ノ利子并保險諸雜費ヲ償フニ足ル金高ニ止マリ賦課スル事トシ又保險局ハ右貸下金ニ據テ建築セル家屋ヲ抵當トシテ口債証券ヲ発行シ以テ貸下資本ニ充ツヘシ如斯クスルハ賦金甚タ低ク政府モ更ニ危険ヲ渉ルヲナク且資本常ニ充分ナルヲ得ヘキナリ何レニシテ

モ東京ニ保險ヲ施行スルハ左ノミ難事ニ非ルナリ
上ニ論スル如ク東京ニ保險ヲ施行スルハ左ノミ難事ニ非ス且
リ府下ノ民ヲシテ火害ノ為ニ流離饑寒ノ禍ニ陥ラサシメ
ト欲セハ保險ノ外他ニ策アラサレハ之ヲ施行スルハ抑々今日
ノ急務ナルノミナラス又茲ニ政府ニ於テ急ニ當府下ニ保險ヲ
施行スルヲ必要トナシ一吏アリ即チ警視廳東京府乙第七
狝布達ニシテ防火線路ニ當ル家屋ノ改築并該線路外ニ於テ制
限ニ適セサル建物ノ改築是ナリ此布達タル以テ大ニ火災ヲ減
殺スルニ足ルヘク實ニ緊要欠ク可カラサル事トス然レトモ此
改築及改葺ニ要スル費額ハ亦頗ル巨大ニシテ附録計表ニ掲ク
ル如ク麹町京橋日本橋三區并内神田ヲ合シテ改築ニ要スル費
用ハ今之ヲ假算スルニ百五十五万七千七百七十圓余又改葺ニ
要スル費用ハ二百三十九万〇二百圓余合計三百九十四万八千

〇二十一圓余ヲ下初ス然リ而シテ改築及改葺ノ事ハ獨リ該四區
ニ止マリテ足ルモノニ非ス漸次之ヲ他ノ十一區及外神田ニモ
施行スルニ非レハ到底十分ノ功ヲ見能ハス加之ナラズ將來遂
ニ全東京ヲ舉テ煉化造土造石造ニ為スニ非ルヨリハ未ダ十分
ニ火害ヲ防禦スル能ハサルナリ然レトモ全東京ヲ煉瓦造土造
又ハ石造ト為ス事ハ少クモ數十歳ヲ積ムニ非レハ為ス可カラ
サル事ナルヲ以テ今假ニ上ノ十一區及外神田ヲ唯々不燃物ノ
屋根ニ改葺セシムルニ止マリ防火線ヲ置サルモノトナシ莫ス
ルモ凡ソ四百八十万〇〇八十二圓余ハ免ル可カラサル費用
ナリトス故ニ今四區ノ改築及改葺費三百九十四万八千〇二十
一圓余ニ十一區及外神田ノ改葺費ヲ加ヘ八百七十四万八千百
〇三四圓トナリ之ヲ十五區ノ家屋ニ分算スレハ每一棟ニ付キ
四十七圓九十三錢余ヲ費ス割合トナル若シ又十一區ノ内ニモ

四區ニ施行スル如キ防火線路ヲ置クヲ要スルハ右ノ外亦數
百萬圓ヲ増加スヘシ況ヤ余ノ十一區ハ四區ニ比スレハ土造石
造等堅固ノ家屋甚タ少キカ故ニ改築ニ要スル費用ハ遙カニ多
ク加フルニ於テヤ今ヤ東京ノ狀況ヲ視ルニ産業一般ニ衰減
シ金融壅塞シ且物價ノ騰貴ニ逢ヒ中等以下ノ民ハ流離饑寒セ
サル者殆ト稀ナリ且中等以上ノ民タリトモ皆生計ノ困苦ヲ訴
ヘサルハナシ此時ニ際シテ每一棟四十七圓九十錢余ノ費用
ヲ辨セシメント府民タル者亦艱難ナラスヤ然リ而メ府民ヲシ
テ能ク容易ニ此費用ヲ辨セシメ且速ニ家屋ヲ改良セシメ以テ
火害ヲ將來ニ減殺スルニハ火災保險ヲ施行スルニ如クハナシ
蓋シ木造家屋ハ火災ニ罹リ易キヲ以テ抵當上甚タ信用薄ク通
常高利ヲ以テスルニ非レハ金ヲ借ル能ハスト虽若シ保險ヲ受
クルキハ忽チ土地ト一般ノ信用ヲ生シ低利ヲ以テ容易ニ金ヲ

借ルヲ得ヘク畢竟一大財産ヲ新ニ増殖セルニ外ナラス其レ如
此クナルキハ以テ能ク改築及改葺ノ目的ヲ達スルヲ得ヘク且
以テ現今金融ノ壅塞ヲ匡濟スルヲ得ヘキナリ若シ然ラズニテ
唯々改築及改葺ヲ強命由スルハ少ク酷ニ過キサラシカ夫レ
家屋改良ノ舉ハ美ハ則チ羨ナリト虽若シ傍ヲ補助ノ道ヲ設ケ
スハ徒ニ之ヲ遂クルノ難キノミナラス良改モ却チ抑壓トナル
患ナシトセサルナリ
前數段ノ理由ヲ以テ家屋火災保險ヲ東京ニ施行スルハ左ノミ
難事ニ非ス又今日ノ狀況ニ於テ之ヲ施行スルノ極メテ緊要ナ
ルトハ閣下既ニ之ヲ了察セラレシ夫レ事ハ機ニ順ヘハ則チ易
ク機ニ逆ヘハ則チ難シ今府下ノ民ハ昨臘及今年一二月ノ大火
ニ懲リ大ニ將來ヲ憂慮スルノ時ナレハ保險施行ノ命ヲ下スニ
ハ今日ヲ以テ最モ適當ノ機會ナリトス閣下願クハ速ニ議ヲ決

シ今ニ於テ至急ニ保險施行ノ令ヲ發セラレシテ若シ夫レ書中
掲クル所ノ計筭ハ下ニ附スル統計諸書ニ詳カナリ閣下幸ニ参
閱ヲ賜ヘ

明治十四年三月二十八日

平田東助百拜